



自然災害に備えよう



台風が発生しやすい季節ですが、そのような季節に関係なく、ゲリラ豪雨や突風、竜巻による風水害の被害が全国的に多く発生しています。昨年の10月に発生した台風19号では、本市でも甚大な被害が起きました。風水害は、地形による影響を大きく受けるため、過去に風水害が発生したことのあ
 る地域に住んでいる場合は、必ずハザードマップを確認しながら避難場所や避難経路を把握しておき
 ましょう。風水害は、地震と違って事前に予測可能なことも多いため、気象情報に注意して、早めに
 対策をとりましょう。

集中豪雨が発生するとき

- ・日本付近に前線が停滞しているとき（特に梅雨期の終わり頃）
- ・台風が日本へ近づいているときや上陸したとき
- ・大気的不安定な状態が続き、次々と雷雲が発生しているとき



集中豪雨が発生したときの影響

- ・川の水かさが急に増えたり、川のはん濫
- ・床下、床上浸水の発生
- ・道路の冠水
- ・地盤がゆるみ、土石流やがけ崩れ発生のおそれ



最新の気象情報をチェックしましょう

ラジオやテレビ、インターネットなどで最新の防災気象情報を入手し、早めの対策を行うことで、風水害による被害を減らすことができます。台風が通過している最中や、雨が強く降っている時に、外の様子を確認しに外出することは控えましょう。水の状態は急変することがあるので、河川や水路、田んぼの状況を確認しに行くことは非常に危険です。

避難についての情報

台風や集中豪雨などにより、災害が発生するおそれが高まったとき、本市から防災無線や携帯電話の**緊急速報**などで避難についての情報が発表されます。



区 分	発表される状況・内容
避難準備情報	特に避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まったとき
避難勧告	通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まったとき
避難指示	・前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと気象庁が判断されたとき ・堤防の隣接地など地域の特性などから人的被害の発生する危険性が非常に高いと気象庁が判断されたとき ・人的被害が発生したとき



避難するとき

- ・危険がせまる前に避難しましょう
- ・避難することを必ず誰かに伝えましょう
- ・必ず靴を履きましょう。サンダルや長靴はかえって危険なこともあります
- ・持ち物はリュックにいれるなど、いざというときに両手が使えるようにしましょう
- ・水の中を歩くときは、側溝やマンホールなどにはまらないように長い棒で確認するなど足元に十分注意しましょう
- ・強風するとき、水の深さがひざ上までであるときなどは、無理をして避難所へ行くよりも、2階など高いところにとどまる方が安全な場合もあります。



土砂災害にも注意が必要

集中豪雨や長雨などで地盤がゆるむと、土砂災害も発生しやすくなります。自分の住む地域で土砂災害が発生する可能性がないか、ハザードマップで確認しておきましょう。

また、気象情報や本市から発表される土砂災害警戒情報に注意し、土砂災害の前ぶれのような異変を感じた場合には、すぐに周りの人に知らせて安全な場所に避難しましょう。

土石流の前兆現象

- ・川の流れがにごり、流木が混じりはじめる
- ・雨は降り続けているのに、川の水位が下がる
- ・山鳴りがする

地すべりの前兆現象

- ・沢や井戸の水がにごる
- ・地割れができる
- ・山の斜面などから水が噴き出す



がけ崩れの前兆現象

- ・がけから小石がパラパラと落ちてくる
- ・がけから水が湧き出ている
- ・がけに割れ目ができる

